

# 都市再生整備計画事業 事後評価シート

名瀬中心市街地地区(第3期)  
(地方再生コンパクトシティ)

令和4年3月

鹿児島県 奄美市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	鹿児島県		市町村名	奄美市		地区名	名瀬中心市街地地区(第3期)			面積	43ha		
交付期間	平成30年度～令和2年度		事後評価実施時期	R3		交付対象事業費	2,668百万円		国費率	0.45			
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 ○いね公園整備事業 ○中心市街地道路(街路)修景整備 ○高次都市施設:市民交流センター整備事業										
		提案事業	○地域創造支援事業 ○事業活用調査 ○まちづくり活動推進事業										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし	削除/追加の理由									削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
	新たに追加した事業	基幹事業	なし										
	交付期間の変更	当初変更	平成30年度～平成32年度 平成30年度～令和2年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		なし							
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	モニタリング	評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期
	指標1	計画地区内の交流施設利用者数	人/年	152,080	H29	262,800	R2		60,637	×	あり なし	市民交流センター整備事業の遅れにより令和2年度の利用者数を見込めなかったことや新型コロナウイルスの感染防止対策により施設閉鎖も重なって、目標達成には至っていない。	令和5年4月
	指標2	計画地区内の入込み客数(宿泊客数)	人/年	141,000	H29	170,000	R2		115,800	△	あり なし	公園整備や道路修景整備により回遊性の向上が図られ、令和元年度には196,900人を超え目標達成をしていた。しかし、令和2年度は新型コロナウイルスの影響により、航空便の運休・減便等により数値が大幅に減少しており、目標達成には至っていない。	令和5年4月
	指標3	計画地区内の営業店舗数	店舗	247	H29	280	R2		270	△	あり なし	商店街賑わい再生事業による空き店舗対策により、多くの新規出店があった。また、その他の事業の複合的な効果により、まちの賑わいが向上し機運が高まったことや、市民交流センターの整備や市役所本庁舎のオープンなどにより事業者の出店意欲に繋がった。しかし、新型コロナウイルスの影響により目標達成には至っていない。	令和5年4月
	指標4	計画地区内のイベント来場者数	人/年	76,850	H29	80,000	R2		6,600	△	あり なし	商店街組織による新規イベント(まちゼミ)の開催などが効果発現に貢献し、イベント来場者数は増加傾向であったため、目標達成が見込まれていた。しかし、令和2年度は新型コロナウイルスによるイベントの中止により、目標達成には至っていない。	令和5年4月
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	モニタリング	評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期
	その他の数値指標1	中心市街地の転入者数	人/年	183	H29				261	●		公園整備や道路修景整備により、中心市街地の魅力が増し、転入者数が増加している	
4) 定性的な効果発現状況	①平成30年3月に全国で32都市選定される「地方再生コンパクトシティ」のモデル都市に選定され、都市再生整備計画により施設整備や官民連携での中心市街地のにぎわい再生などに取り組んだ結果、中心市街地のにぎわい創出や官民連携による継続的なまちづくり体制の強化に寄与した。 ②商店街でのイベント開催などにより、商店街の事業者と若者の交流が深まり、若手経営者による商店街活性化の機運が醸成されたほか、地域への愛着が深まることで若者の流出抑制に寄与することが期待できる。なお、こうした取り組みから、奄美市通り会連合会が令和元年6月発行の経済産業省「はばたく商店街30選」に選出されている。 ③中心市街地のAiAiひろばで伝統芸能である八月踊りの練習が行われており、クルーズ船の送迎や観光イベント等で披露されるなど、中心市街地が地域振興にかかる活動の場となっており、住民同士の交流促進にも貢献している。なお、こうした取り組みから、活動に取り組む「あらしげ会」が「一般財団法人地域伝統芸能活用センター」の2019年度「地域振興賞」に選出されている。												
5) 実施過程の評価	実施内容		実施状況										今後の対応方針等
	モニタリング	※当初採択時、中間年にモニタリングを実施する予定だったが、交付対象期間が3年と短く、モニタリングを要する事業規模の大幅な見直し等がなかったため実施を中止した。	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										●
	住民参加プロセス	WS形式により中心商店街のメインストリートとなる都市計画道路末広港線の利活用計画をまとめ、道路占用特例制度の活用を想定した歩道での滞在空間創出の社会実験を実施した。	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										● ●
持続的なまちづくり体制の構築	商店街賑わい再生事業やイベント開催を通じ、持続的なまちづくり体制の構築を図った。	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										● ●	今後もソフト施策を積極的に継続し、ハード整備との相乗効果を目指す。 第4期都市再生整備計画でも継続的に取り組みを行い、持続可能な活動に繋げていく。

## 様式2-2 地区の概要

### 名瀬中心市街地地区(第3期)(鹿児島県奄美市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
<b>大目標</b> 市民と観光客がともに集う賑わいあふれる名瀬中心市街地の形成 ～いもーれ・Comeもーれ・ゆていもーれ コンパクトシティ「ゆらうまち」の実現～ <b>目標①</b> 便利で賑わいがあり、毎日来なくなるまち <b>目標②</b> “おもてなし”を感じられる、また訪れなくなるまち <b>目標③</b> 多様な交流の場があり、ひとの魅力があふれるまち	計画地区内の交流施設利用者数	単位: 人/年	152,080 H29	262,800 R2	60,637 R2
	計画地区内の入込み客数(宿泊客数)	単位: 人/年	141,000 H29	170,000 R2	115,800 R2
	計画地区内の営業店舗数	単位: 店舗	247 H29	280 R2	270 R2
	計画地区内のイベント来場者数	単位: 人/年	76,850 H29	80,000 R2	6,600 R2

**□基幹事業**  
街区公園整備事業(いね公園)



**□基幹事業**  
道路路景整備事業(井根12号線)





**■基幹事業**  
【高質空間形成施設】  
道路路景整備事業  
・末広巻線  
・奄美本通り(中央50号線)  
・市道中央28号線  
・市道井根12号線  
・市道金久25号線  
・銀座通り(中央46号線)  
・市道金久28号線  
・市道井根19号線  
・市道伊津部4号線  
・市道中央10号線

(参考)  
一期・二期計画の主な事業箇所  
・道路路景整備  
・公園  
今後整備予定の主な事業箇所  
・道路路景整備  
・公園

○関連事業  
・マリナタウン整備事業  
(名瀬港本港地区埋立事業)

○関連事業  
・末広・港土地区画整理事業

○関連事業  
・暮らし・にぎわい再生事業  
(〔仮称〕子育て・保健福祉総合施設整備事業)

○関連事業  
・にぎわい・回廊整備  
(案内板・案内標識等整備)

**■基幹事業**  
【高次都市施設(地域交流センター)】  
・〔仮称〕市民交流センター整備事業

**■基幹事業** 【高質空間形成施設】  
街区公園整備事業  
・いね公園

○関連事業  
・奄美市本庁舎建設事業

整備済  
・AIAIひろば(観光・交流センター、高次都市施設)

○関連事業  
国道58号線バイパス整備事業

□提案事業 中心商店街  
【地域創造支援事業】  
・商店街賑わい再生事業  
  
・タウンモビリティ検討事業  
【事業活用調査】  
・事業調査  
(通行量調査、事後評価等)

□提案事業  
【地域創造支援事業】  
・商店街統一音響整備事業

□提案事業  
【まちづくり活動推進事業】  
・イベント開催等  
・官民連携関連施設検討事業

凡例  
■ 基幹事業  
□ 提案事業  
○ 関連事業

**□基幹事業**  
高次都市施設(市民交流センター)




**まちの課題の変化**

- ・新型コロナウイルスの影響で交流人口や観光客が大きく減少したため、今後はウィズコロナ・アフターコロナを見据えた交流人口の促進及び入込客数の回復を図るための取り組みが必要である。
- ・市民交流センターの進捗の遅れから計画期間内に供用開始できなかったが、今後は多くの市民が生涯学習や市民活動において、より活発に活動できる場として、多世代・多目的な交流空間の形成を図っていく必要がある。
- ・マリナタウン整備事業の完成により、質の高い観光地形成に寄与すると考えられる民間事業者の進出が期待されており、まちづくり施策と観光関連施策との連携により中心市街地の賑わいづくりを推進する必要がある。
- ・世界自然遺産登録の影響等により観光需要は高まっており、より一層の活性化を図るため、イベント開催や観光地として魅力の発信を継続していくなど、ソフト面での工夫が必要である。

**今後のまちづくりの方策(改善策を含む)**

- ・分散している保健センター・老人福祉会館を集約するとともに、子育て世代の社会活動を支援するため、(仮称)子育て・保健・福祉複合施設の整備を行い、都市機能の集積を図る。
- ・中心市街地における居住や商業店舗の出店を促進することにより、魅力ある中心市街地の形成及び活性化を図る。
- ・市街地への来訪のきっかけをつくるため、イベント等の開催に対する支援や商店街の雰囲気にあったBGMの放送、リアルタイムな情報発信により、市街地の賑わいの創出を図る。
- ・道路や公園といった公共空間について、官民が連携してまちづくり活動に活用するなど、引き続きその方策について検討を行うとともに、運営体制について強化を図る。